

第 12 分科会「自立」「特別支援教育」の運営概要

【研究課題】 自立や社会参加の実現に向けた特別支援教育の推進と校長の在り方

- 【研究の視点】
- 1 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の内容の充実
 - 2 特別支援教育を効果的に推進するための体制の整備及び必要な取組

I 分科会研究協議の運営計画

【討議の柱】

〈研究の視点 1〉について

- ・特別な支援を必要とする子どもの実態把握とそれに基づいた指導計画の作成と充実
- ・交流学习や共同学習等を効果的に位置付けた教育課程の編成と実践交流

〈研究の視点 2〉について

- ・全校的な支援や関係機関との連携に基づく効果的な支援が機能する体制の確立
- ・全職員が共通認識に立ち、一体となって推進するための校内研修の充実

□両方に通じる内容として

- ・視点 1 と 2 に関して、特別支援教育における校長の果たすべき役割やリーダーシップ

II 昨年度までの成果と課題

平成 25 年度 ～道小：渡島北斗大会から～

【成果】

- ・特別支援教育は目指すところは同じでも、学校の状況により、校長が適した方法を選択して充実を図っている。(キーワード～意識改革・意思統一・共通理解・保護者との連携)
- ・特別支援教育推進の重点は、校長の指導性の発揮にあることを確認した。

【課題】

- ・校長自らが特別支援教育や障害に関する認識を深めることが必要である。
- ・リーダーシップを発揮して、体制整備等を行い、組織として十分機能するよう教職員を指導する。(校長のチェック機能・指導性・研修の重要性)
- ・交流及び共同学習について、もっと交流を深められればよかった。

平成 24 年度 ～道小：上川大会から～

【成果】

- ・校長自身が明確な姿勢を示し、特別支援教育の方法や考え方を教職員に共通理解させるためのリーダーシップの発揮が必要である。
- ・特別支援教育は、校長が経営方針や重点項目などに位置付けるなどして、教職員の意識改革を図る努力が必要である。

【課題】

- ・特別支援教育の考え方が、日常の教育指導や支援に生かされなければならない。
- ・通常の学級においても、人的な配置など全校体制の組織的な指導支援が求められる。
- ・教職員の理解の促進と専門性の向上が一層必要である。
- ・個別の支援計画を充実させるとともに、関係機関との連携も促進させる。

Ⅲ 研究発表の概要

研究発表者

今金町立今金小学校長 谷 口 光 伸

Ⅳ 協議の流れ（13：00～16：30）

- ① 趣旨説明（10分）
- ② 研究発表（20分）

研究発表

「自立や社会参加の実現に向けた特別支援教育の推進と校長の在り方」

～ 檜山地区校長会の研究を軸として・実践事例から ～

- 1 檜山地区小学校長会の研究について
- 2 視点1 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の内容の充実
「個別の教育支援計画」策定と「個別の指導計画」作成、活用と校長の取組
- 3 視点2 特別支援教育を効果的に推進するための体制整備及び必要な取組
SS 会議の取組、ケース会議の開催、校内就学指導委員会の開催、中学入学に関わ
っての情報交流会の開催

- ③ 研究発表への質問応答・感想等（10分）
- ④ 研究協議 8グループ構成（各5名）司会1名 記録1名
- ⑤ グループ協議①（自己紹介を含め40分）
視点1についてのグループ発表（20分）
- ⑥ グループ協議②（30分）
視点2（視点③も含む）についてのグループ発表（20分）
※グループ協議の柱
 - 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進と校長の在り方
 - 特別支援教育の効果的な推進と校長の在り方
 - 校内研修の充実
- ⑦ 休憩（15分）
- ⑧ 全体討議・交流（25分）
- ⑨ 研究のまとめ（10分）

※お願い：グループ討議で使用いたしますので、「名刺」をご持参ください。